

# 野菜畑作生産情報 第5号

平成28年8月18日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎病害虫防除と排水対策を徹底しましょう！  
◎適正な温度管理と肥培管理を徹底しましょう！

## 畑作物

### 1 大豆

#### (1) 生育状況

- ・ 生育は、平年を上回っている。
- ・ 病害虫は、べと病の発生が見られ、ウコンノメイガ等の食葉性害虫が一部で見られる。

表-1 大豆の生育状況（8月10日調査）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合 研究所 (黒石)	本年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/1 (早3日)	7/28 (遅1日)	106.5 (121%)	62.3 (115%)	14.1 (105%)	2.9 (107%)
	平年	5/25	6/4	7/27	88.2	54.3	13.4	2.7
	前年	5/25	6/9	7/30	101.2	62.8	13.7	2.1
野菜 研究所 (六戸)	本年 (平年差・比)	5/15 (早1日)	5/22 (早4日)	7/28 (遅1日)	112.3 (109%)	71.6 (109%)	13.8 (99%)	2.8 (97%)
	平年	5/16	5/26	7/27	102.9	65.4	14.0	2.9
	前年	5/15	5/25	7/27	112.1	64.7	13.2	3.8
五所川原 市 (旧金木)	本年 (平年差・比)	6/6 (遅4日)	6/12 (遅1日)	8/2 (遅3日)	82.3 (97%)	—	—	—
	平年	6/2	6/11	7/30	84.9	—	—	—
	前年	6/3	6/10	7/29	91.4	—	—	—
十和田市	本年 (平年差・比)	6/3 (早3日)	6/10 (早4日)	8/1 (早3日)	102.4 (132%)	—	—	—
	平年	6/6	6/14	8/4	77.7	—	—	—
	前年	6/6	6/15	8/3	94.7	—	—	—

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、五所川原市、十和田市は生育観測ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去11年間、野菜研究所が過去9年間、五所川原市が過去14年間、十和田市が過去15年間の平均値。

## (2) 今後の留意点

- ・ ウコンノメイガ、ツメクサガ等の食葉性害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・ マメシクイガの防除を次により徹底する。

薬剤の種類	散布時期
○ 合成ピレスロイド剤 パーマチオン水和剤、トレボン乳剤、トレボンMC、 アディオソ乳剤、アグロスリン乳剤、トレボン粉DL ○ ベンゼンジカルボキサミド剤 プレバソンフロアブル5	【一般のほ場】 8月第6半旬～9月第1半旬に1回散布 【多発しているほ場】 一般ほ場より早めの8月第5半旬に1回 目、その7日後に2回目を散布
○ 有機リン剤 エルサン乳剤、サイアノックス乳剤、スミチオン乳 剤、ダーズバン乳剤40、スミトップM粉剤、スミチオ ンベルコート粉剤DL、エルサン粉剤2、エルサン粉 剤2DL	9月第1半旬に1回目、その7日後に2 回目を散布

- ・ 紫斑病は、開花期後20～40日の間に防除する。なお、チオファネートメチル剤とベノミル剤に対する耐性菌が発生しているため、薬剤の選択には注意する。
- ・ 8月下旬～9月初めに殺虫・殺菌混合剤を使用すると紫斑病とマメシクイガを同時防除できる。
- ・ 台風や大雨に備え、滞水しないように明きょ等の排水対策を徹底する。

## 2 小麦（は種の準備）

- ・ は種が早いと生育が進み過ぎて雪腐病の発生を助長し、遅いと越冬前の生育量が不足するので、は種適期である9月15日～25日には種ができるようほ場を準備する。
- ・ ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょなどで十分な排水対策を行う。
- ・ 土壌分析をして酸度矯正が必要な場合は、苦土石灰等により土壌改良を行う。
- ・ 紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、薬剤による種子消毒を行う。

# 野 菜

## 1 ながいも

### (1) 生育状況

- ・ 地上部は平年を上回っている。地下部は種いもの頂芽の有無により生育差が見られ、頂芽付きでは平年を上回っており、頂芽切除では平年並からやや下回っている。
- ・ 葉渋病の発生が見られる。

表－2 ながいもの生育状況 (8月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	い も 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 1日早	6/26 3日早	417.4 (117%)	329.3 (137%)	32.1 (100%)	102.4 (93%)	36.0 (108%)
	平年	5/26	6/29	355.3	240.3	32.1	110.5	33.4
	前年	5/25	6/25	388.2	351.8	38.8	191.7	40.6
五 戸 町	本年 (平年比)	5/ 6 8日早	6/10 7日早	— (—)	— (—)	47.3 (107%)	152.6 (90%)	32.0 (89%)
	平年	5/14	6/17	—	—	44.3	169.8	36.0
	前年	5/ 1	6/ 8	—	—	56.0	266.4	41.0
東 北 町 野田頭	本年 (平年比)	5/12 5日早	5/30 13日早	— (—)	— (—)	39.3 (123%)	144.0 (133%)	33.9 (114%)
	平年	5/17	6/12	—	—	31.9	108.0	29.8
	前年	5/10	5/30	—	—	40.0	188.0	34.6

注) ①平 年：野菜研は平成19～27年の9か年の平均値。

五戸町は平成14～27年の14か年の平均値。

東北町は平成17～27年の11か年の平均値。

②種 子：野菜研は園試系6の2年子(100g)頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。

東北町は庄司系の1年子(70～90g)頂芽付き。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。

東北町は畦幅110cm×株間23cm(3,953株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

⑤野菜研の本年の数値は8月9日現在の値。

### (2) 今後の留意点

- ・ 8月20日以降の追肥は、茎葉の過繁茂や平いもの発生を助長するおそれがあるため行わない。
- ・ 葉渋病、炭疽病の防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類など害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・ 特に採種ほ場では、ウイルス病の伝搬を防ぐためにアブラムシ類の防除を徹底する。
- ・ 台風や大雨に備え、ネットや支柱の補強、降雨後の停滞水の排水対策を徹底する。また、植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

## 2 にんにく

### (1) ほ場の準備

- ・ イモグサレセンチュウなどの病害虫が発生していないほ場を選ぶ。
- ・ 堆きゅう肥や土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用し、必要量以上に投入しない。
- ・ 緑肥は、少なくとも植付けの30日前にすき込み、石灰窒素を10a当たり40kg施用し、ロータリー耕を3回程度行う。
- ・ 転作田など排水の悪いほ場では、過湿による病害の多発や生育不良を防ぐため、明きよの設置やサブソイラ等による溝切りなどの排水対策を実施するほか、高うね栽培とする。

### (2) 種子の準備

- ・ イモグサレセンチュウが発生したほ場のりん球は種球として使用しない。
- ・ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- ・ チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病を対象とした種子消毒を徹底する。

## 3 夏だいこん

### (1) 生育状況

- ・ 生育は順調で、平年を上回っている。
- ・ 病害の発生はほとんど見られないが、害虫はコナガ、アオムシの発生が見られる。

表-3 夏だいこんの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
平 川 市 善光寺平	本年	7/ 9	30.9	15.4	64.9
	(平年比)	2日早	(121%)	(126%)	(244%)
	平年	7/11	25.5	12.2	26.6
	前年	7/11	27.0	12.5	22.1

注) ①平年：平成18年～27年の10か年の平均値。

②品種：盛夏土心（前年も同じ）。

### (2) 今後の留意点

- ・ 生育状況を確認しながら適期に収穫する。
- ・ 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

## 4 秋にんじん

### (1) 生育状況

- ・ 地上部は概ね平年並であるが、地下部は平年を下回っている。
- ・ 病害虫の発生は見られない。

表－4 秋にんじんの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平年比)	6/22 2日遅	22.2 (97%)	5.1 (86%)	6.9 (64%)	1.6 (25%)
	平年	6/20	23.0	5.9	10.8	6.3
	前年	6/20	35.3	8.3	18.9	18.9

注) ①平年：平成9年～26年の18か年の平均値。

②品種：向陽2号（前年も同じ）。

### (2) 今後の留意点

- ・ 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。

## 5 ごぼう

### (1) 生育状況

- ・ 生育は概ね順調であるが、生育観測までは平年を下回っている。
- ・ 黒斑細菌病の発生が見られる。

表－5 ごぼうの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年 (平年比)	4/24 4日早	98.0 (80%)	2.4 (77%)
	平年	4/28	122.8	3.1
	前年	4/19	124.7	2.7

注) ①平年：平成18～27年の10か年の平均値。

②品種：柳川理想。

### (2) 今後の留意点

- ・ 黒斑細菌病などの防除を徹底する。

## 6 夏秋トマト

### (1) 生育状況

- ・ 5月上旬定植では、6段果房の収穫終盤となっている。
- ・ 7月の低温、日照不足により収穫は平年よりやや遅れている。
- ・ 梅雨明け以降の高温により収穫果は小玉傾向となっている。
- ・ 灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類、タバコガ類、コナジラミ類の発生が見られる。

表－6 トマトの生育状況 (8月10日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	5 段花房		7 段花房		9 段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年 (平比)	5/ 1 4日早	6/11 10日早	1.7 (60%)	7/15 2日遅	2.4 (86%)	8/ 3 4日遅	3.1 (106%)
	平年	5/ 5	6/21	2.8	7/13	2.8	7/30	2.9
	前年	5/ 3	6/15	3.1	7/16	3.1	7/30	3.3
三戸町 斗 内	本年 (平比)	5/22 5日遅	7/17 13日遅	未 (－)	－ －	－ (－)	－ －	－ (－)
	平年	5/17	7/ 4	2.7	7/22	2.0	－	－
	前年	5/18	7/ 8	2.6	7/24	1.9	－	－

注) ①平年：五所川原市は平成16～27年までの12か年の平均値。

三戸町は平成20～27年の8か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）。前年と同じ。

三戸町はりんか409（自根）。前年と同じ。

③五所川原市の生育観測までは、6月下旬に5段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新している。

④三戸町の生育観測までは、第1花房の着果節位が7.9枚で、過去3か年の平均より1.9枚多い。

## (2) 今後の留意点

### ア 温度管理等

- ・ 肩換気などにより適正な温度管理を徹底する。また、適切なかん水、肥培管理により草勢の維持に努める。
- ・ 9月以降は裂果の発生が多くなるので、土壤水分が極端に変化しないように管理する。

### イ 摘 心

- ・ 雨よけ栽培では、例年9月5日頃までに開花した花房が収穫できるので、開花直前の花房の上にある葉を2枚残して摘心する。

### ウ 病虫害防除

- ・ 灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類の早期発見・早期防除に努める。

## 7 ね ぎ

### (1) 生育状況

- ・ 生育は順調で、草丈、茎径とも平年を上回っている。
- ・ 黒斑病、葉枯病、さび病、アザミウマ類の発生が見られる。

表-7 ねぎの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
十和田市 羽立	本年	2/26	4/20	96.1	22.1
	(平年比)	8日遅	11日早	(104%)	(108%)
	平年	2/18	5/1	92.6	20.5
	前年	3/11	4/29	87.9	28.4

注) ①平年：平成17～27年の11か年の平均値。

②品種：夏扇パワー。

### (2) 今後の留意点

#### ア 管 理

- ・ 追肥・培土は、生育の進み具合に合わせて適期に行う。なお、培土は、葉の分岐部の下までを目安に行う。
- ・ 軟腐病を回避するため、培土は天気の良い日の地温が低い早朝に行う。
- ・ 最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。
- ・ ほ場の停滞水は生育不良の原因となるため、排水対策を徹底する。

#### イ 病虫害防除

- ・ べと病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など、病虫害の防除を徹底する。
- ・ アザミウマ類の被害が目立つほ場では、茎葉散布のほかに粒剤の株元施用を併用して防除する。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報検索システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめ取る！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

---

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5078
直 通	017-734-9481

---